team. 愛色leciel
theme. 食育とコミュニティ

D 石塚孝太郎・富田麻未・佐藤菜生・太田晶子・笠原るしえ
世良竜也・原菜月・石田詩織・林知恵実　教員：武田亘明

N 石川綾乃・大友咲乃・川島育美・坂爪里紗・高宮庸司郎
鉢呂真美・三上奈月・吉田育美　教員：須田恭子

研究の背景と目的

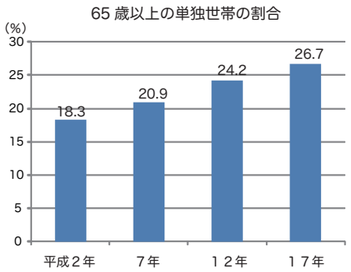
私たちは、現代社会のコミュニケーション不足や食に関わる問題に特に注目してきました。

近頃、核家族世帯の増加やそれに伴う高齢者の独り暮らし率の上昇、また共働きの夫婦の割合の増加等の傾向があり、このままだと子供や高齢者が一人で食事を済ませる「孤食」も、今後ますます増えていくでしょう。この「孤食」という問題は食への関心を薄れさせてしまうものでしょうし、実際に朝食の欠食や食の簡便化が現代社会の問題として取り上げられています。北海道では「どさんこ食育推進プラン（仮称）」（平成 21 年 8 月）が推進されており、農水産資源が豊富な北海道においても食の問題が注目されているようです。

また、生活の中で得た実感から考えると、現代社会は人と人とのコミュニケーションが希薄になっていて、近所の住人や生活圏で身近にいる人とますます関わらなくなってきています。顔を知っていても挨拶を交わさなかったり、町内会の催しに人が集まらないこと等からも、地域の多世代間のコミュニケーションが少なくなってきている事を感じます。

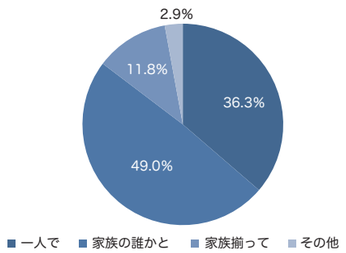
そこで、私たちは地域の人々と自然にコミュニケーションがとれて、食べる事や食べ物を大事に出来る社会を目指して、人と関わるコミュニティーがあり、そこで食を通したコミュニケーションをしていくことで食への理解を深める仕組みを考えて行こうと思います。

高齢者のいる一般世帯のうちの
65 歳以上の単独世帯の割合



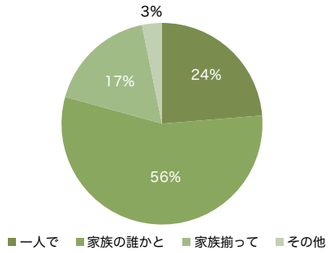
資料：総務省統計局「国勢調査」平成 17 年度

北海道の中学生の朝食摂取状況



資料：北海道 PTA 連合調べ　平成 16 年度

北海道の小学生の朝食摂取状況



資料：北海道 PTA 連合調べ　平成 16 年度

畑コミュニティー

コミュニケーションを促し、食育に貢献するようなもののかたちとして、畑を中心としたコミュニケーションの場を生み出すことを考えています。

― なぜ畑か

畑の良い点は、食育とコミュニケーションに関係していることです。まず、畑は農作物を育てられる場であり、その成長の過程を体感できることから、食育に大きく関わります。また、屋外の決まった場所に変わらずある、畑のような場所は、人が集まる場として適切です。

― 畑単位のコミュニティー像

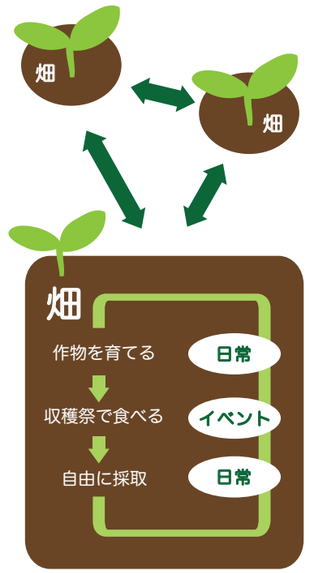
想定するのは、１つの畑に１つのコミュニティーです。この” 畑単位” のコミュニティの中で次に示すようなサイクルを繰り返します。

①畑をつくりコミュニティーを形成
②畑単位で作物を育てる
③共同作業で、体験の共有と情報交換が行われる
④収穫祭を開き、育てた作物をたくさんの人と一緒に食べる
⑤次の栽培が始まるまでの間、作物は自由に採取できる
⑥作物を育てる・・・（繰り返し）

このサイクルは、目標を持って取り組む要素、にぎやかな要素、気軽な要素を含みます。このような変化のある流れを組むことで、コミュニティーを継続させていきます。

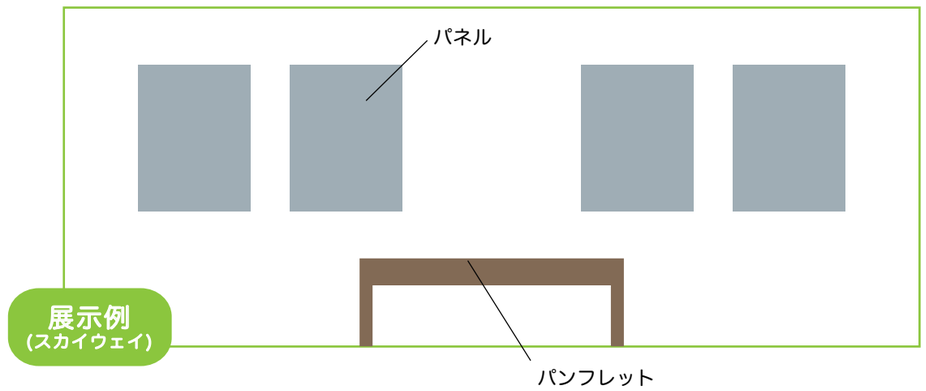
― 展開方法

コミュニティーを畑単位で考えることで、地域ごとの特徴を活かした畑コミュニティーの形成や、畑と畑の交流によるコミュニティーの拡大など、さまざまな展開方法が考えられます。



来期の活動計画概要

～３月 / コンセプト、企画概要などの基本的な事項の決定
４月 / データ収集、詳細な企画の計画
５月 / データ収集、詳細な企画の計画
６月 / 企画全体の最終確認
７月 / パネル、パンフレット等の制作
８月 / パネル、パンフレット等の制作
９月 / 完成

最終アウトプットイメージ

企画内容をパネルにまとめ、展示する。その他に、企画自体のパンフレットや、この企画に含まれる農業体験ツアーのパンフレット等を制作する。